

名古屋大学医学部附属病院における 病院疫学調査と抗菌薬適正使用の取り組み

名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部/
抗菌薬適正使用支援チーム

活動概要 当院では横断的疫学調査のデータに基づき、2016年より各診療科との話し合いを行い、経口薬処方を大幅に削減した。現在、①周術期抗菌薬の多施設調査、②市中病院の抗菌薬適正使用に取り組んでいる。

【Point Prevalence survey (PPS)】

ある1時点の横断的疫学調査

入院患者背景

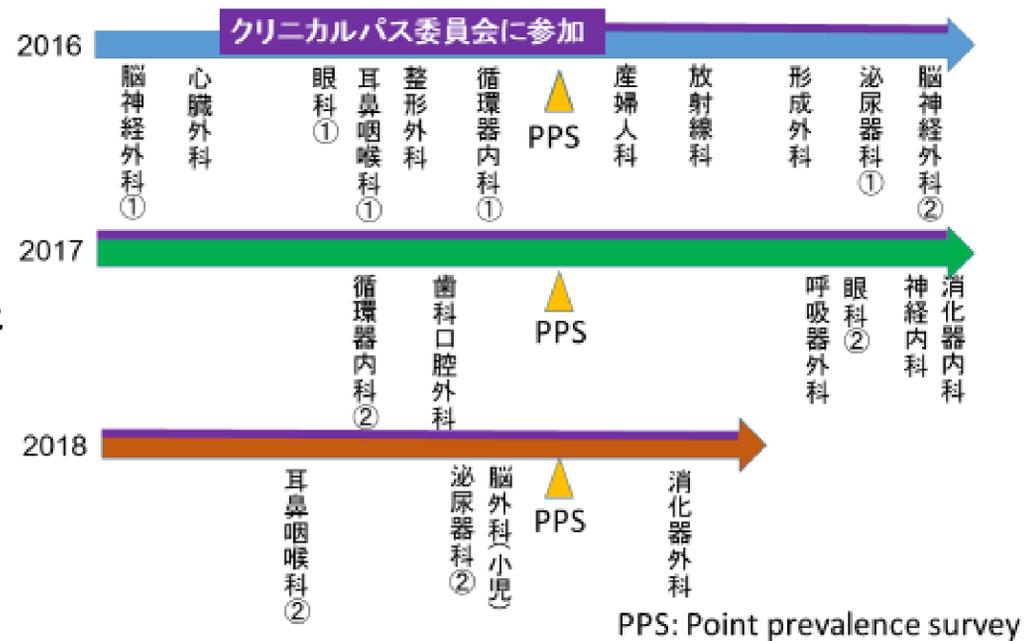
抗微生物薬処方

医療関連感染症の有病率 を調査

→2014年より継続的に年1回施行中

2014年、2016年(4大学)結果は報告済

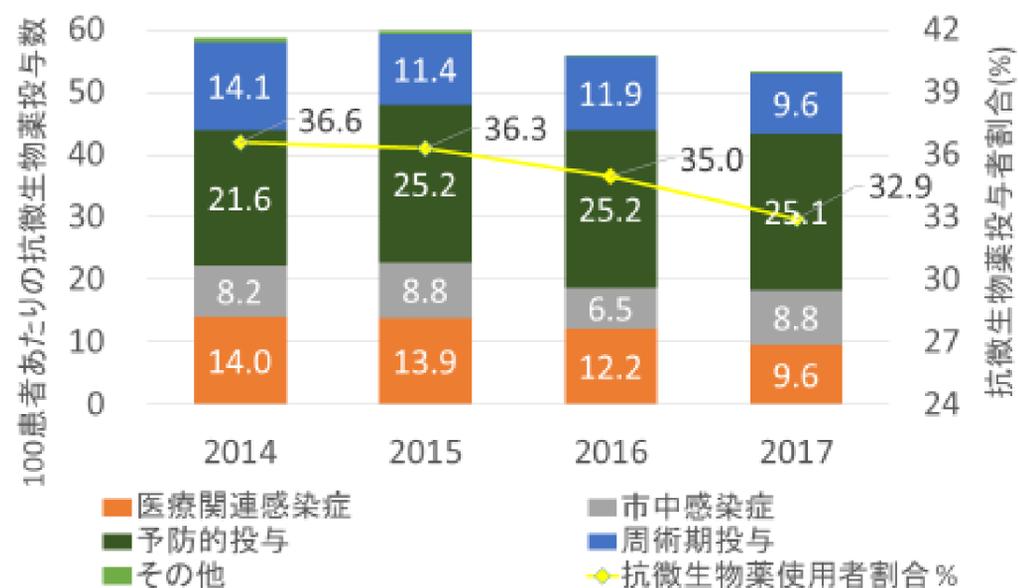
Figure 1. 各診療科との話し合い
周術期抗菌薬、感染症治療について



【名大病院での取り組み】

1. 年1回のPPSによる病院疫学の把握(各診療科の処方傾向も)
2. 各診療科のガイドラインの推奨周術期抗菌薬の提案&感染症治療に関する話し合い(Fig 1.)
3. 「名大病院感染症診療ガイド」を各診療科と作成・配布
4. クリニカルパスの抗菌薬・感染症に関する部分に全て関与

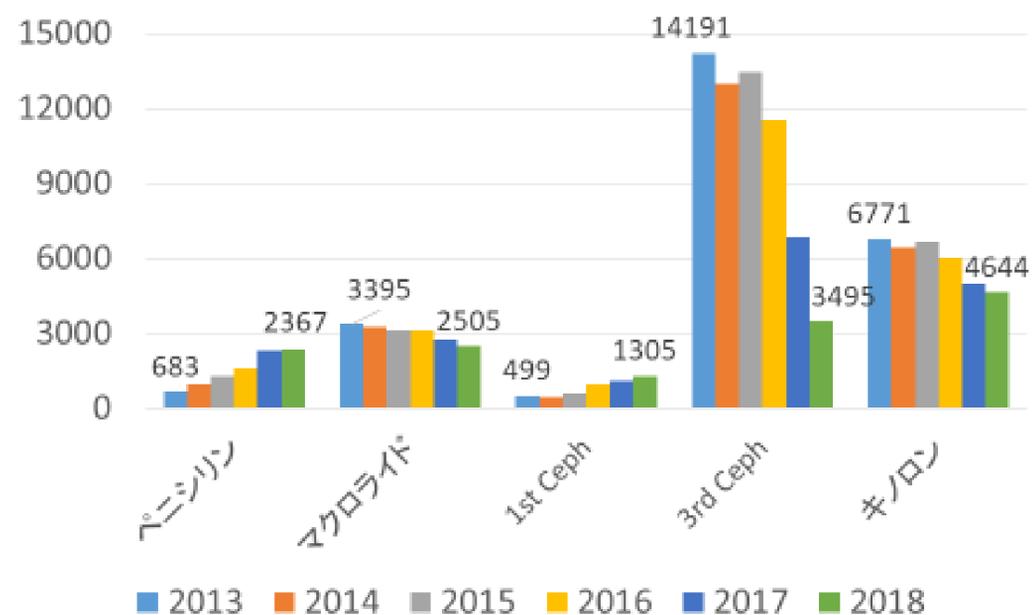
Figure 2. 抗微生物薬投与推移(PPS)



【結果】

- ある1日の院内全体での抗微生物薬処方数・処方者割合は減少した(Fig 2.)
- 経口のセファロスポリン、キノロンで大幅な処方件数減少が認められた(Fig 3)

Figure 3. 入院+外来の内服処方件数
(2018年データは1-4月に基づく推定値)



【今後の方向性】

- 大学病院における周術期抗菌薬の実態調査を施行中(市中病院での参考になるデータを示す)
- 医局単位で市中病院に大学病院の取り組みを示していく(耳鼻咽喉科医局で2018年7月に施行)